

# 幼児の問題行動と保育者の手立て

○宮本正一  
(岐阜大学教育学部)

## 目 的

幼児教育の現場で保育者は多様な保育場の問題を抱え、なんとか問題に対処している。筆者は岐阜県公私立幼稚園と連携して、幼稚園教諭の実践研究に関わってきた。ここでは平成21年度に岐阜県幼稚園教育研究協議会「親と幼稚園が進める心の教育」に寄稿された48編の実践記録を分析する。分析の視点は、幼稚園教諭が「何を」実践の視点と捉え、「どのような手立て」により教育を進めていったかの2点である。

## 方 法

寄稿された48編の実践記録を読み、その内容を詳細に分析した。分析者は筆者1名である。

## 結 果

まず取り上げられた内容は図1の通りである。その半数が、「友達の中に入れない」「自分の思いを表現ができない」「登園を嫌がる」等の「非社会的行動」を取り上げていた。

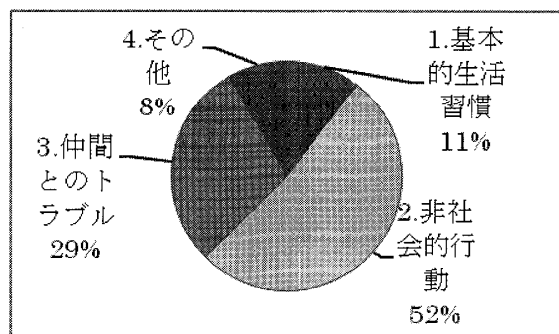


図1 取り上げられた問題の内容

2番目に多かったのは「仲間とのトラブル」「集団行動ができない」「自分の思いばかりを主張する」等の仲間関係であり、3番目が「基本的生活習慣が出来ていない」等の問題であった。つまり報告の8割が、子どもが幼稚園という集団の場に入っていき、自分をそこで表現していく際の困難さを保育者は問題としていたのである。

これらの社会性の問題に対して保育者はどのような手立て・方法を採用しているのであろうか。そこで実践報告の中から具体的な手立てを取り出して、リストをつくった。その際に、「共感的に理解した」「A子に寄り添った」等という抽象的でムード的な内容は除外した。その結果、208の具体的な手立てが抽出できた。48編の実践記録の中で3編は園経営や学級経営の内容であった。2編は具体的な手立てが全く書かれていなかった。

抽出された手立てを働きかける対象と内容という2つの次元から検討した。まず働きかける対象は①対象児本人、②対象児を含む仲間やクラス全体、③親の3つに区分できた。それに④保育者自身による事前の環境作りを加えると4つのカテゴリーに区分できた。働きかける対象を図2に示した。

対象児本人が55%と番多く、次はその家族・母親が28%と多かった。対象児を含む仲間やクラス全体を巻き込む働きかけも7%見られた。環境づくりの工夫としては、「グループ作りを意図的に工夫した」「自信のつく尻相撲で対戦させた」等が挙げられた。これらは保育の目的を達成するために前もって環境を整えたり、保育後にフォローアップとして行った手立てである。見通しを持って計画的に行われた手立てと考え

られる。

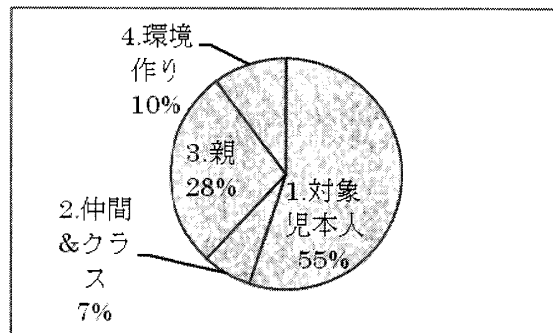


図2 働きかけの対象区分

対象児への働きかけとしては以下の11種が区別された。

- ①接近 保育者が意識的に対象児に近づき、身近な存在として承認してもらおうとする手立てであり、8つの記述が見られた。
- ②誘導 「「Aちゃんが何しているか見に行こうか」とさりげなく誘う」等と対象児を望む行動に誘導する手立てである。10個の記述が見られた。
- ③体験共有 これは「バッタ探しを何日も一緒にした」等の手立てであり、対象児と同じ時間と空間を共有して、子どもとのつながりを深めていこうとするものであり、13の記述が認められた。
- ④スキンシップ 「子どもを抱きしめる」等と対象児を保育者が身体的接触により働きかける手立てであり、11の記述が見られた。
- ⑤代弁 「「今何々したいんだって」と子どもの気持ちを代弁した」等であり、自己表現が十分でない対象児に代わって保育者が表現する手立てであり、一種のモデリングとも言える。6つの記述が見られた。
- ⑥賞賛 「「よく描けてるね」と褒めた」等と子どもの行いを認め、褒める手立てである。褒めることは「その行動を続けよ」という情報も含まれている。18の記述が見られた。
- ⑦感情の反映 対象児が言葉に出せない感情を注意深く観察し、それを手がかりにして対象児の感情に注意を向けてフィードバックしていく手立てで、14の記述が報告されていた。
- ⑧はげまし 「「大丈夫、できるよ」と励ました」等と対象児を励ましていく手立てで、8つの記述が見られた。
- ⑨教示 「「困ったときは先生に話しに来ればいいよ」と伝えた」等と保育者が行動を示唆したり、指し示したり、教えていく手立てで、17の記述が見られた。
- ⑩スモールステップ 「「鉄棒に10秒タッチね」と鉄棒に触れる機会をつくった」等とプログラム学習で取り入れられた基本的原理であり、4つの記述が見られた。
- ⑪課題付与 「皆の前に立つ機会をつくった」「リレーで一周の所を2周するように伝えた」等のように、対象児に少し頑張れば出来る課題を与えて成長をのばしていこうとする手立てであり、3つの記述が認められた。

これら11種の手立てはカウンセリングの技法も含んだ教育的手立てである。教師の資質向上とはこのような手立てを子どもの特性に応じて、そして時と場合に応じて適切に執り行える力量だと思われる。